

USD / JPY 米ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年6月の相場展望

発行日

June 1, 2026

対象期間

5月実績 / 6月展望

通貨ペア

USD / JPY

発行頻度

Monthly

5月末レート（終値）

159.244

▲ +1.67%（5月月間騰落）

5月高値

159.647

5月安値

155.027

FED金利

3.50-3.75%

BOJ金利

0.75%

今月のハイライト

- 5月は**156.62円**でスタートし、Fedの利下げ先送り観測・日銀の連続据え置きを背景に月末159.24円まで円安進行
- Warsh新FRB議長が**5月22日**就任。インフレ抑制を最優先とするタカ派スタンスを維持し、6月FOMC（6/16-17・政策発表は日本時間6/18早朝3時）での利下げ確率は約10%未満に
- 日銀は2026年1月・3月・4月と**3会合連続で0.75%を据え置き**。中東情勢の影響を見極めつつ利上げ路線は維持との姿勢
- 日米金利差（**最大3.00pp**）の大きさがドル高を構造的に下支え。一方、6月会合での日銀利上げシグナルに注意

6月 基本シナリオ レンジ

155 - 161円

FOMC・日銀会合（同日6/16）が最大の焦点（確率50%）

日米政策金利差

最大3.00pp

依然大幅なドル優位が継続

始値

156.622

5月1日

高値

159.647

月中最高値

安値

155.027

月中最安値

月間騰落

+1.67%

+2.622円

5月の相場動向

5月のドル円は**156.62円**でスタートし、Fedの利下げ先送り観測と日銀の3会合連続据え置きを背景に円売り・ドル買いが優勢となった。月中に**159.65円**まで**上昇**し約1カ月ぶりの高値を更新。155円台では実需の買いや日銀関係者の発言が下値を支え、レンジ内で方向感を試す展開となった。

米国では4月CPIが前年比3.8%と高止まりし（エネルギー高騰が主因）、Fedの6月利下げ期待がほぼ消滅。Warsh新議長は5月22日就任後もインフレ抑制を最優先とするタカ派スタンスを維持し、**日米金利差（最大3.00pp）**の大きさがドル優位の構造を維持した。

主要イベントの影響

us WARSH新FRB議長就任

- 4月29日FOMC：3.50～3.75%を据え置き
- Warsh議長が**5月22日就任**。インフレ抑制最優先のタカ派スタンス継続
- 6月FOMCでの利下げ確率は約10%未満（市場織り込み）

JP 日銀 政策金利

- 4月28日会合：0.75%を3会合連続で据え置き（2026年1月・3月・4月）
- 中東情勢の経済影響を見極める姿勢を強調
- 6月会合（6/16）での利上げ観測が市場で浮上中

5月の総括

5月は「**利下げ先送り×日銀据え置き**」の構図がドル高・円安をサポートした月。日米金利差の大きさから円安圧力は継続。月間+1.67%と着実に上昇し、**159円台を回復**。6月はFOMC・日銀が同日（6/16）に開催される異例の日程となり、両方向のサプライズリスクが高い点に留意。

6月の注目ポイント

6月の最大の焦点は①**6/10発表の米5月CPI**（Fed政策判断の直前指標）、②**6/16-17 FOMC会合**（政策発表は日本時間**6/18早朝3時**）（Warsh議長初のドットプロット公表）、③**6/16 日銀金融政策決定会合**（利上げシグナルの有無）の3点。特にFOMCと日銀が同日に開催されることから、両方向のサプライズリスクが極めて高い。160円台への上昇局面では政府・日銀の口頭介入・実弾介入警戒も引き続き意識される。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	Fed据え置き・日銀据え置きで金利差維持、ドル高継続	159 - 163円
基本	50%	FOMC・日銀ともに現状維持。CPI前後でボラ高め	155 - 161円
弱気	25%	日銀利上げ示唆・米イラン合意でドル急落	149 - 156円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
日銀の早期利上げ示唆（6/16会合）	中	円高	6月会合で1.00%への利上げを示唆すれば円ショート大規模巻き戻し。150円方向への急落リスク
米5月CPI上振れ（6/10発表）	中	円安	再びインフレ高止まりが確認されればFedの利上げ議論が浮上、ドル急騰で160円超えも
Warsh議長のタカ派発言継続	中	円安	ドットプロットで2026年利下げゼロを示唆すれば米金利上昇・ドル高が加速
米イラン核合意成立	中	円高	原油急落→米インフレ低下→Fed利下げ前倒し観測でドル売り・円買いが加速

6月の見通し

基本シナリオでは**155～161円の広いレンジ内での推移**を予想（確率50%）。日米金利差が依然大きくドルの下値は限定的。ただし日銀の利上げシグナルや米イラン合意等の**方向性を変えるサプライズ**には十分注意が必要。6/10 CPI→6/16 FOMC・日銀という怒涛のイベントスケジュールを前に、ポジション管理が重要な月となる。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関の略称。年8回の会合で政策金利の引き上げ・引き下げ・据え置きを決定します。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。年8回の金融政策決定会合で政策金利を決定。現在は段階的な利上げ（正常化）路線を継続しています。

政策金利 / 金利差

中央銀行が景気・物価調整のために設定する**基準金利**。各国間の金利差が為替レートを動かす主要因のひとつです。

FF金利

Fedが設定する**米国の政策金利**。銀行間の翌日物金利で、住宅ローンや企業向け融資など幅広い金利に影響します。

為替介入

政府・中央銀行が**自国通貨の急激な変動を防ぐために外為市場で売買を行うこと**。日本では財務省が権限を持ち日銀が執行します。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）を借りて高金利通貨で運用し**金利差から利益を得る取引**。リスクオフ時に一斉解消（巻き戻し）で円高が急進することがあります。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の解釈の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。